

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞

税と私達の暮らし

熊谷市立小島中学校 三年 荻原 久幸

七月に新潟で震度6という大地震が起きた。僕のクラスにはお父さんが会社の都合で長岡に一人で住んでいるという友達がいるととても心配していた。テレビをつけるとわれ目の入った道路、けがをした人、こわれた建物、水道や電気が通じていないなどの被害の様子が何度も映されていた。私達の暮らしの中には税金に支えられているものがたくさんある。

整備された道路や橋、学校、図書館などの公共施設、病院の健康保険、上下水道、警察、ゴミの収集、と今まであって当たり前だと思っていたものがこのような災害で使えなくなり不便を感じて初めて私達の豊かな生活は税金によって支えられているということがわかってくる。そして僕達は心ばかりではあるがお見舞いの手紙を書こうということになった。幸い友達のお父さんの会社は水びたしになった所が数ヶ所あったが、建物は無事だったそうだ。これから整備していく上でお金がかかるだろうが、大きな日本という家族の一人が困っているのだからぜひ助けて元どおりの生活を取り戻せるようにしてほしい。

次に環境と税についてのべようと思う。この夏は異常なくらいの暑さが続いた。熊谷市は全国一位で40.9度となりテレビで話題になった。「ヒートアイランド」という言葉をよくニュースで耳にしますが、地球温暖化は石油、石炭などの消費で二酸化炭素が排出されることが原因だ。CO₂の削減問題がテレビでとり上げられ「炭素税」を課税する国もあらわれた。

次にCO₂削減のために木を植え、夏の暑い日中でも快適な温度を保つということだ。ビルの屋上に木を植えたり、窓にツタ科の植物をはわせ光をさえぎるというものだ。森を保全するため税により伐採を抑制しようとする「森林税」で、木を切ったらそれに応じた税金を納めるというものだ。

環境と税というと遠いことのように思われがちだが、環境を守っていくための税はこれからの私達には不可欠になっていくだろう。少しでも多くの人々に環境問題に関心を持ってもらうこと、これらのさまざまな問題を考えるとき、税の存在はかかせない。

税の使い道をよく考え、私達の生活にいかしていかなければならないと思う。そのためには、私達の暮らしと税が身近であるということや税のしくみについて学んでいく必要があるということだ。